

前澤工業の宮川多正社長は5日の仕事始めに当たり、同会議室で社員らを前に年始あいさつを行った。概要は次の通り。

◆コロナ禍も社員の

献身に感謝

コロナ禍以外にも、昨年は

昨年も新型コロナウイルス変異株の世界各地での流行が続き、日本では年末に第8波に見舞われたが、幸いにも当社は事業を止めることなく一

欧米での金融引き締めによる景気減速、ロシアのウクライナ侵攻による資源価格高騰、中国でのロックダウンによるグローバルサプライチェーンの混乱など、歴史の流れが大



未来見据え成長を

前澤工業 宮川社長が年始あいさつ

きく変化し、将来予測が困難な時代を迎えたと実感した一年だった。

2023年を迎えたが、IMFの世界経済見通しによると米ドル高継続による余波、燃料価格高騰によるインフレ長期化、中国不動産投資の急変などを背景に、世界経済の成長率がマイナス成長に陥る可能性が10%以上と予測されている。その一方、わが国はサービス消費、インバウンド消費の回復など経済の正常化余地は大きく、G7中トップの1・6%の成長率が予測されている。いずれにせよ一日も早い経済活動の正常化が望まれる。

◆脱炭素への貢献模索

社長就任の際、「技術開発の強化」「社員一人ひとりの個性が生かされた企業組織づく

る」という二つの目標を掲げた。

前者については、バルブ事業では圧力センサ付バルブの開発が進んでいる。水道管内の圧力をリアルタイムで監視し、異常が発生した際には通知が発出される予防保全貢献製品で、昨年度水道展で参考展示を行った。

環境事業では、省エネ型深層曝気技術が令和4年度のB-DASHプロジェクトに採択され、現在実用化を目指している。施設の省エネ化のみならず、改築の際の高所作業リスクも低減できる画期的な技術だ。

このほかにも多くのテーマを設定し、日々新技術開発に取り組んでいるが、特に脱炭素社会の実現に貢献する製品が強く望まれていると感じる。地球温暖化問題は人類に課せられた先送りできない問題であり、一企業としても真剣に取り組むことで未来を担う人への社会的責任と認識している。20年、30年先の社会を見据えしっかりと取り組んでいく。

◆中計最終年度を 飛躍の年に

後者については、企業に人的資本の活用が求められる中、重要な課題と考えている。これまでに面談制度の見直しや新たなキャリアデザイン研修の実施、そして未来塾の開講など人材育成制度の充実を図ってきたが、根底には企業として社員の自立的なキャリア形成と成長を全力で支援するという想いがある。自身の成長につなげられるかは一人ひとりの取り組みや姿勢に懸かっている。自ら考え実行し、学ぶ意欲を持ち、律すること

が成長への第一歩となる。現在実施している全社員を対象としたDXに向けたeラーニングについては、業務多忙の中だが一つでも新たな知識を得る機会として活用いただきたい。ベテラン社員の皆

さんも、これまでの豊富な経験、成功体験だけに依存せず、謙虚な姿勢で取り組んでいただきたい。

今年6月からは現中期3カ年経営計画の最終年度が始まる。部署ごとの計画や目標を振り返り、計画期間最後まで突っ走れるよう、今年度の残りの期間のうちにしっかりと準備を固めてもらいたい。

今年の干支は癸卯。これまでの努力が実り始めるという縁起の良い年。当社グループもウサギのように大きく飛躍し、しっかりと成果を得られる年にしたい。

これから年度末に向けて繁忙期を迎えるが、社員の皆さんが健康で、今年一年を無事故無災害で過ごせることを祈念しています。